

研究テーマ；会話を持続させるための指導の工夫

所属 高知市立旭中学校

氏名 胎中 真理

R G J H 2

1. 研究の背景

(1) 今、授業でとてもうまくいっていることや自信をもってやっていること

一年生なので、元気いっぱい英語を発音すること、はずかしがらずに話すことができる生徒が多い。また、好奇心旺盛で、「これって(英語で)どう言うの?」という質問がきっかけとなって、さらに表現を増やしたりできる。

(2) 今、授業で抱えている問題や悩み

発音練習や会話練習、ゲームなどは生き生きと取り組むが、ノートをとることや、単語・文を書いて覚えたりすることにやや消極的である。

また、会話練習では男女の垣根なく、できるだけ多くの相手に話しかけることができるクラスもあれば、そうでないクラスもあるので、これを打破したいと思った。

2. リサーチ・クエスチョン

ある話題について、2 分間会話を続けるにはどうすればよいか

3. 予備調査

(1) 授業観察の結果 (学習指導案 別紙)

自分の説明の原稿を先に作ったこともあり、すすんで話しかけることができていた。また、話しかけられた生徒も Yes か No かの答えで明確なので《例》にしたがってすすめることができた。今はまだマニュアルどおりに会話をすすめることが精一杯なので、一年生の後期には自分の言いたいことや聞きたいことが会話の中身になっていくように深めていきたい。

(2) アンケート (別紙)

(3) 生徒の自己評価 (抜粋)

- ALT と授業や授業以外において、英語で話す努力ができたか

よくできた	まあまあ	できなかった
-------	------	--------

27%	23%	32%	13%	2%
-----	-----	-----	-----	----

- 班活動・ペアワーク・インタビューゲームなどによく取り組んだ

20%	35%	34%	6%	2%
-----	-----	-----	----	----

自己評価の結果を見ると、約 50% の生徒が積極的に英語を話す努力ができています。今の意欲を失わず、さらに積極的に取り組む生徒が増えるような手だてを考えていきたい。

4. 仮説の設定

仮説 1 あるトピックについて話す前に 5 文程度書いて行えば会話をすすめることができる。

仮説 2 つなぎ言葉を知ることによって会話が続けやすくなる。

仮説3 表現できにくい言葉をリフレーズする練習をすることで、自分の言いたいことを伝えることが簡単になる。

5. 計画の実践

9月 ペアを固定する。ペアワークの頻度を増やす。

10月 つなぎ言葉のプリントで、簡単な表現を身につけさせる。作文をさせ、それを使ったインタビューをくりかえす。

11・12月 今までに習った表現をもとに会話し、2分間の会話を行わせる。

6. 実践の結果

9月 どのクラスでも、男女のペアでペアワークに取り組むことができるようになった。

10月 つなぎ言葉は長い文のものより、一つの単語だけで聞き返すものが多く使われたが、

回を重ねるごとに、人と同じではなく、あらかじめ練習しておいてあえて長い文を使おうとするペアも出てきた。作文も同様で、簡単な表現を好んで使う生徒もいれば、違う言い方を「これでもいい?」とこちらに確認した上で、話そうと努力する生徒もでてきた。

11・12月 まずペアの男女同士で会話し、次に時間いっぱいクラスメイトにインタビューしていくことを続けた。同性ばかりに行きがちだった生徒も、これで解消できた。2分間はまだまだ基本表現ばかりの会話だけで、1つの話題から発展させていく会話には到達していない。

7. 結果の検証

当初の課題であった、男女の垣根なくできるだけ多くの生徒に話しかけることについては、

どのクラスもほぼできるようになった。基本文を用いて作文をすることはできたが、語彙もまだ少ないのでありきたりの文であり、答える側の内容についても、問われたことに返すのがやっとである。つなぎ言葉は、会話がインタビュー形式から抜け出していないため、使える表現が限られてしまっている。仮説3についてはまだ本格的には取り組めていない。2分間はあらかじめできている文を使いこなす練習にとどまり、一つの話題を掘り下げていける中身に到っていない。

8. 成果と今後の課題

研究の主旨を生徒に伝えたこともあるが、一学期より生徒が会話練習に前向きに取り組む姿勢が何よりもありがたかった。生徒は勉強のためのペアであるということを理解し、まず自分のペアを大事に思うことができるようになり、教えあいが自然に増えた。語彙が増え、一学期よりたくさんの英語を使えるようになっていくことが自信にもなり、人前で発表することにも積極的になった生徒が増えた。が、今学期は行事が相次ぎ、教科書をすすめるのでやっとだったこともあり、取り組みが遅々として進まなかった。生徒のほうも、覚える量が増え、単語や文を覚えきれなかったり、会話練習に入る前段階で作文に手間取り、授業が間延びしてしまった。そして、生徒の現状に合わせて仮説の見直しができなかったことも反省点である。引き続き、マッピングの導入や、会話をそれぞれのペアで録音して発語数・内

容を実際に記録していく、自己表現につなげる作文を入れていくなどの活動を徐々にすすめたい。一年生ではまだ基本文を覚え、使い方を身につける域だとは考えたが、目標を作ったことで、それに向けて授業や手だてを考え、試行錯誤しながら取り組んでいく良い機会を与えていただいたと思う。短期間では成し得なかったが、さらにこの課題でのぞみ、生徒の自身の言葉で話せるように持っていきたい。